

肉牛経営の将来構想の実現
～将来構想の実現に向けた取り組み～

(課題番号 10)

- ◆活動年次：令和3年度
- ◆対象：えりも町 将来構想検討農業者（2戸）

1 課題の背景

4割が後継者がいる家族経営であり、後継者は将来の経営に不安を抱えている。
また、古い施設が多く、将来の労働力を考慮した施設投資が求められている。



将来構想について、対象の後継者と協議・検討（R2）

牧場名	経営形態	飼養頭数	所得目標	将来頭数規模
A	黒毛和種繁殖経営	繁殖雌牛：30頭	1000万	繁殖雌牛40～50頭
B	酪農・黒毛和種繁殖複合経営	経産牛20頭、繁殖雌牛20頭	1200万	酪農・肉牛専業化

将来構想の実現に向けた取り組みを行っていく必要がある。

2 活動の経過

牧場名	取組内容
A	施設建設に向け、飼槽のベタ打ちと連スタの設置
B	乳牛の増頭による所得の向上、それによる機械・施設投資に向けた資金確保



〈施設建設、増頭にあたって〉

どのように施設を使ったらよいだろうか？
どのように飼養したらよいだろうか？



写真1 農業者と施設の使い方を協議



写真2 農業者、JA担当者と飼養方法検討

農業者、
JA担当者と協議

3 活動の成果

牧場名	取組結果
A	連スタの設置の目処が立ち、増頭に向けた準備が開始された。
B	経産牛（乳牛）が5頭増え、所得が確保された。

4 今後の対応

将来構想の実現に向けた方向性が決まり、取り組みが開始されたため、本年度で終了する。